

【 英語 コミュニケーション英語Ⅰ 1学年 】

授業者 佐賀県立神埼高等学校 教諭 古川 昌宏

◇単元名

Lesson 5 Soccer Uniforms Say a lot about Countries

(桐原書店「WORLD TREK English CommunicationⅠ」)

◇単元の目標

- ・サッカーの各種の国際大会で、各国の代表選手たちが身に付けているユニフォームの役割やその色やエンブレムのもつ意味について考える。
- ・各国のユニフォームの色やデザインには、どのような歴史的・文化的な背景があるのかについて理解する。
- ・読み取った内容に対する自分の感じたことや考えたことを、学習した語句や表現を活用しながら、英語で伝えることができるようになる。
- ・英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲をもつ。

◇本時の目標

- ・プロサッカーチームのユニフォームとエンブレムを基に、色やエンブレムに意味があることに気付く。
- ・サッカーが世界中で人気のあるスポーツであることを、ヨーロッパ・南米・アフリカ・アジアの強豪国についての例を通して知り、ユニフォームと各国の文化との関連性を扱った本課への興味をもつ。
- ・英語を聞く、話す、読む、書く学習を通して、好きなユニフォームについてのコミュニケーション活動を楽しむ。

◇配慮や工夫

本時の学習は、本単元の導入部分であるので、生徒たちにサッカーの各国のユニフォームやエンブレムのもつ意味について興味をもたせる時間としたい。そのために、最初に親しみのある地元のプロサッカーチームのユニフォームやエンブレムに触れさせ、表現活動につなげていくことをねらいとしている。

そこで、本時の学習において、次のような配慮や工夫を行っていく。

導入では、見通しをもたせるために、本時の単元名、教科書のページ数、授業の流れを黒板に書いておき、授業の途中でも確認できるようにする。また、電子黒板で地元のプロサッカーチームのユニフォームやエンブレムに関する視覚資料を提示する。

展開では、単語・語句リストを配布して、リスニングに必要な単語や語句の発音の練習や意味の確認をする。その後、覚える時間を提示して、短時間で集中して単語や語句を書いて覚えさせるようにする。音読練習では、モデルリーディングで読む英文の長さや速さに変化を付けて、段階を踏んで徐々に一人で読めるように練習させる。また、教科書だけでなく、電子黒板の映像および音声教材を利用して、生徒に興味をもたせるようにする。自分の意見を述べる時には、必要な定型文やその定型文に合う例文や単語を提示することで、自分の意見を英語で書きやすいようにする。また、ペアや少人数でのコミュニケーション活動を取り入れ、話すことへの抵抗を和らげるようにする。

まとめでは、学習内容を振り返らせるために、本時で学習した内容を英語で質問して、それに対して短い言葉で答えさせるようにする。

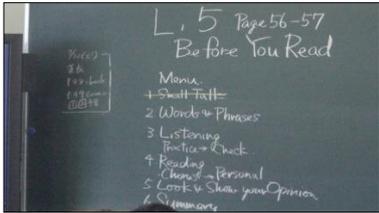
次の「本時の学習活動と具体的な学習環境」の「具体的な学習環境等」にある**学習環境Ⅰ～学習環境Ⅳ**とは、授業者が特に工夫をして取り入れたり、生徒アンケート等で効果が表れていたと捉えたりしている学習環境です。具体的な内容については、後の「取り入れた学習環境の実際と生徒の様子」で詳しく説明しています。また、各**学習環境Ⅰ～学習環境Ⅳ**の下にある〈 〉内の言葉は、生徒が抱える苦手さの領域を示しています。

◇本時の学習活動と取り入れた具体的な学習環境

過程	学習内容	具体的な学習環境等
導入	1 サッカーユニフォームの色やエンブレムに意味があることに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の単元名、教科書のページ数を板書する。</li> <li>・本時の学習の流れを黒板に書く。 <b>【学習環境Ⅰ】</b></li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が興味をもつように、電子黒板で地元のプロサッカーチームのユニフォームやエンブレムの写真を見せる。 <b>【学習環境Ⅱ】</b></li> </ul>

展開	<p>2 Before you read の課題に取り組む。</p> <p>(1) 新出単語や語句の読み方や意味を理解する。</p> <p>(2) 音読練習をする。</p> <p>3 好きなユニフォームについて話し合う。</p> <p>(1) 自分の意見を書く。</p> <p>(2) グループ内で話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子黒板で教科書の写真や図を拡大して提示する。 <b>【学習環境Ⅱ】</b></li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>単語・語句リストを配布し、リスニングに必要な単語や語句の発音の練習や意味の確認をする。</li> <li>発音しにくい単語や語句にカタカナで発音を表記しておく。</li> <li>書く活動に集中して取り組むことができるように、単語や語句のつづりや日本語の意味を覚える時間を提示する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>モデルリーディングでは、ワークシートを用いて、読む英語の長さや速さに変化を付けながらリピートさせる。 <b>【学習環境Ⅲ】</b></li> </ul> <div data-bbox="703 660 1029 869" style="border: 1px solid black; height: 93px; width: 204px;"></div> <ul style="list-style-type: none"> <li>段階ごとにできているかを確認する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意見を英語で表現しやすいように、定型文やその定型文に合う例文や単語をワークシートに示しておく。</li> <li>自分の意見を発表しやすくするために、ペアや少人数でのコミュニケーション活動の場を設定する。 <b>【学習環境Ⅳ】</b></li> </ul> <div data-bbox="703 1205 1023 1406" style="border: 1px solid black; height: 90px; width: 200px;"></div>
まとめ	<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>5 次時の学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の学習内容を英語で尋ねて、授業の中に出てきた短い言葉で答えるようにさせる。</li> <li>プリント等をファイルに閉じさせる。</li> </ul> <div data-bbox="703 1547 1029 1749" style="border: 1px solid black; height: 90px; width: 204px;"></div> <ul style="list-style-type: none"> <li>次時の学習内容を提示する。</li> </ul>

◇取り入れた学習環境の実際と生徒の様子

<b>学習環境Ⅰ</b> <b>〈聞くこと〉</b>	授業の最初に、本時の単元名、教科書のページ数、Menuとして学習の流れを黒板の左の方に書く。	
<b>取り入れた意図</b>	聞くことが苦手な生徒にとって、本時の単元名やMenu(学習の流れ)等を板書することで、見通しをもって活動ができるようにする。また、集中することが苦手な生徒にとっても、板書を見ることでいつでも授業の進行状況や学習内容を確認できるようにする。	
[学習ページや学習の流れを書く] 	<b>生徒の取組の様子</b> 教師が終了した活動の文字を消していく時に、生徒たちは黒板を見ながら授業の進行状況を確認していた。生徒アンケートの結果でも、Menuに今日学習する内容が順番に書いてあったので分かりやすかったと答える生徒が多くいた。	
<b>[学習環境の考察]</b> 聞くことが苦手な生徒にとっては、授業の最初に本時の単元名、教科書のページ数、Menu(学習の流れ)を視覚的に提示することで、授業の見通しがもちやすくなったと考える。また、授業の途中でも、授業の進行状況とその時に行っている学習活動がMenuを見て分かるので、集中力が途切れがちな生徒も目標をもって取り組むことができたと考えられる。		

<b>学習環境Ⅱ</b> <b>〈見ること〉</b>	電子黒板を使い、地元のプロサッカーチームのユニフォームやエンブレムの写真及び、教科書の写真や図を拡大して提示する。	
<b>取り入れた意図</b>	大事なポイントを見ることが苦手な生徒にとって、写真や図を拡大して電子黒板で提示することで、本文の内容を把握しやすくする。また、授業の初めに地元のプロサッカーチームのユニフォームやエンブレムの写真や図を見せることで、生徒が興味をもって学習に取り組むことができるようにする。	
[ユニフォームやエンブレムを提示] 	<b>生徒の取組の様子</b> 単元の導入で、地元のプロサッカーチームのユニフォームやエンブレムの写真や図を電子黒板に提示したことで、生徒たちは顔を上げて、興味深く電子黒板を見ていた。また、それらについての教師の説明も集中して聞いていた。	
[教科書の写真や図を拡大して提示] 	<b>生徒の取組の様子</b> 電子黒板で教科書の写真や図を拡大したことで、教科書のどの部分を学習しているか明示することができ、生徒にとっては見るべきポイントが分かりやすかったようだ。電子黒板に注目しながら、提示された写真や図に関する教師の質問に対して自発的に答えるなど、生徒達が意欲的に授業に参加している姿が見られた。	
<b>[学習環境の考察]</b> 生徒にとって身近な視覚資料を提示することで、生徒は学習内容に対して興味をもって取り組むことができた。また、音声や文字の説明だけは本文の内容を理解することが難しい生徒も、写真や図等の視覚補助を取り入れることで、英語の語句や英文の理解がしやすくなったと考える。さらに、写真や図を拡大して提示することで見るべきポイントがよく分かり、意欲的な授業への参加につながったと考える。		

<b>学習環境Ⅲ</b> <b>〈読むこと〉</b>	英文を斜線で区切ったワークシートを用いて、段階を踏んだ音読活動を行う。	
<b>取り入れた意図</b>	読むことが苦手な生徒にとって、2～3語程度ごとに斜線で区切った英文を用意することで、一度に読む量が少なくなり、音読しやすくする。教師がモデルリーディングをする際は、徐々に一度に読む量を多くしたり、読むスピードを速くしたりする。このように段階を踏み、繰り返し音読活動を行うことで、徐々に一人で読めるようにする。	
<b>[英文に音読用の区切りの線が書いてあるワークシート]</b>	<b>生徒の取組の様子</b> 英文に2～3語程度ごとに区切った斜線があるので、どこで区切って読めばよいかの分かりやすさ、英文を音読することが容易になったようだ。生徒たちは一人ですらすらと読めるようになることを目標に、繰り返し英文を読んでいた。最後にはモデルリーディングなしで、各自で音読活動を行っていた。	
<b>[学習環境の考察]</b> ワークシートの英文は2～3語程度ごとに斜線で区切ってあるので、読むことが苦手な生徒も音読活動に取り組みやすくなったと考える。読む英文の長さやスピードについては変化をつけながら、段階を踏んで繰り返し音読活動を行うことで、徐々に無理なく一人で読めるような力がついていくと思われる。		

<b>学習環境Ⅳ</b> <b>〈話すこと〉</b>	ペアや少人数でのコミュニケーション活動の場を設定する。	
<b>取り入れた意図</b>	クラス全体など、大人数の前では自分の意見を発表することが苦手な生徒にとって、ペアや少人数で自分の意見を述べさせるコミュニケーション活動の場を設定することで、人前で自分の意見を英語で話すことについての抵抗を和らげるようにする。	
<b>[少人数でのコミュニケーション活動]</b>	<b>生徒の取組の様子</b> 多くの生徒は教師の指示の後ですぐにペアになり、コミュニケーション活動に取り組んでいた。二人だけの会話なので、自分の考えを英語で話すことに対する抵抗感が少なくなり、大人数の前で話す時よりも積極的にコミュニケーション活動をしている姿が見られた。	
<b>[学習環境の考察]</b> 大人数の前で自分の意見を発表することをためらう生徒も、ペアあるいは少人数のグループの中で自分の意見を述べさせることで、自分の考えを英語で話すことについての抵抗感が和らぎ、積極的なコミュニケーション活動を行うことができたと考える。ペアだけではなく少人数のグループにすると、生徒にとっては他の人の意見を聞く機会が更に増えると考えられる。		